

平成 29 年度北海道真駒内養護学校 第 2 回学校評議員会

1. 日 時：平成 29 年 12 月 12 日（火） 10:00～11:30
2. 場 所：小・中学部会議室
3. 出席者：伊藤 嘉彦 様
菊地ひとみ 様
佐々木規文 様
4. 内 容：
 - 授業参観（安達主幹教諭）
 - 教育課程、授業改善の取組（小倉研究部長）
 - 平成 29 年度学校評価（佐橋副校長）

【授業参観と感想】 ※■印は委員のご意見等です。

■児童の理解の度合いはどうか。授業内容をみると、4 回のコマをもう少しゆっくり進めてもよいのではないかと。「ワクワク・ドキドキ感」を高めていくために、発問の時にヒントを出してあげて正解に導く工夫や、映像の工夫などをしてよい。

■児童の理解の度合いが個々に異なり、授業をどのように進めていくのか難しい。児童の理解に合わせる、一人一人の表現の仕方に工夫して行うことが難しいのではないかと。

■児童それぞれが異なる中で、一つの目標に向かい授業することは難しいと思う。そこに取り組む先生方には敬意を払う。



【学校評価】

意見について、特になし

【感想・質疑】

■年間指導計画は「学校が教えなければならないこと」が記されていると説明を聞いた。一人一人の実態が異なるが、個々に作られるものなのか。

校長

教育課程により大枠を決めており、一人一人に個別化を図っている。「生きる力」を育むには、発達年齢や生活年齢を考慮するとともに個別化を図る必要がある。本校では生きる力を 5 つの力とし、バランスよく育むようにしている。



- 年間指導計画について、月ごとに反省をして見直しされているのか。

校長

児童生徒の成長や課題とともに修正されている。児童生徒の可能性を伸ばすことが重要であり、家庭と学校のそれぞれの気づきを交換することで、新たなチャレンジに繋がる。だからこそ、担任任せではなく、指導体制や指導グループの工夫、集団と個の学びが大切になる。

- 地域の活用や連携の面からも、年間指導計画にある目的を共有する必要がある、学校が何をやっているかを知ってもらうことが大切。学校評価のまとめについて Webup してはどうか。

校長

情報公開が大切と考える。Web で見ることができるなど開かれた学校づくりを進めたい。



- 学校評価について、数値化することで客観性がもたれる。なるべくわかりやすくできるとよいと思う。

【閉会】校長

児童生徒の成長をどう評価するかについて、個々の発信を受け取る教師の見方に左右されることがある。だからこそ、複数の目で見ることがポイントとなる。

昨年度の学校評価では、「よくわからない」との回答が多かったことから、設問や文言を具体化するとともに、わが子を通した評価となるよう工夫している。Web による公開をした際に、そのリアクションを受ける手立てが必要になる。また、評価の結果から、学校として何をしようとしているのかをわかりやすく伝えることが重要と考えている。